

発行： 日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)

会長： 末石 富太郎

事務局： 〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室

発行責任者・池田 三郎

TEL. 0298(53)5380 FAX. (53)5070

編集・中村 豊

--- 目次 ---

1. 第2回研究発表会報告
2. 第4回理事会報告
3. 年次総会・春季講演シンポジウム案内
4. 学会誌第2号原稿(論文)募集
5. S R A 年次学会の参加報告
6. S R A News Letter の紹介
7. 関連する学会・講演会の案内
8. 新会員名簿(1989年8月以降)

1. 第2回研究発表会報告

日本リスク研究学会主催の第2回研究発表会が1989年12月9日(土)に国立教育会館(東京都千代田区)で開催された。参加者登録は97名で、このうち会員は79名であった。各研究発表は5つのセッションに分けられ、合計14編の研究論文が発表された。最初の3セッションでは疫学、都市防災、製造物責任をテーマに3人の先生方にレビュー講演をしていただき、それに関する一般の研究発表があった。しかし、製造物責任のテーマについては、今回一般の研究発表の申し込みがなかったのが残念である。残りの2つのセッションでは上記3テーマ以外の一般募集した研究発表は公共的意思決定とリスク・コミュニケーションの5件が報告された。研究発表会のプログラムを以下に示す。なお、講演予稿集は余部がありますので必要な方は事務局まで申し込み下さい。(一部 2,500円)

第2回日本リスク研究学会研究発表会プログラム

セッション1 (疫学)	9:00 - 10:55	司会 池田正之(京都大)
レビューア	疫学から見たリスク評価:	清水弘之(岐阜大)
	高血圧症疫学におけるリスク評価:	田中平三(東京医科歯科大)
	職業ガンにおけるリスク評価:	大前和幸(慶応大)
	幹線道路沿道における大気汚染とその健康影響評価:	小野雅司、
		田村憲治、○村上正孝
		(国立公害研)

- セッション2 (都市防災) 11:00 - 12:30 司会 黒田勝彦 (京都大)
 レビューア 都市防災からみたリスク評価と対策: 亀田弘行 (京都大)
 河川行政とリスク概念: 市川 新、○水野 敏之 (東京大)
 自然災害リスクと土地利用計画: 黒田 勝彦 (京都大)
 ○難波 義郎 (近畿大)
- セッション3 (製造物責任とリスク) 13:30 - 14:10 司会 朝見行弘 (福岡大学)
 レビューア 製造物責任リスクとその対策: 新井 克 (安田火災海上保険)
- セッション4 (公共的意志決定) 14:15 - 15:30 司会 盛岡 通 (大阪大学)
 ごみ焼却工場に由来の未規制化学物質によるリスクの評価:
 山本 武 (大阪市立環境科学研)
 不確実性を考慮した価値関数による公共的リスク評価の方法論:
 ○田村 担之、松井 善郎、
 鳩野 逸生 (大阪大)
 環境リスク負担と対策コストの公平性:
 ○中村 豊、池田 三郎 (筑波大)
- セッション5 (リスク・コミュニケーション) 15:35 - 16:50
 司会 広瀬 弘忠 (東京女子大)
 リスク管理における社会・文化要因の評価:
 土井 陸雄 (横浜市大)
 リスク・コミュニケーションの効果(3):
 ○木下 富雄 (京都大)
 吉川 肇子 (京都学園大)

懇親会 18:00 - 19:15

2. 第4回理事会報告

日 時: 12月9日(土): 12時-13時

場所: 国立教育会館6階603準備室

出席者: 末石(会長)、横山(副会長)、朝見、池田(正)、池田(三)、小林、林、田中、盛岡、吉本(石崎の代理)、黒田

審議事項

- (1) 第3回議事録(6月24日)は確認された。
- (2) 新会員の承認 (前回6月以後21名の入会と1名の退会を承認した)。
- (3) 事務局より報告:
 - 1) 会員状況、前理事会以後(1989年6月15日-12月1日まで)は下記の通りである。

	継続	新規入会	退会	合計
正会員	170	20	1	189
準会員	4	1	0	5
賛助会員	日本NUS(株) チバガイギ(株) JR東海(株) 電力中研(財) 動燃事業団(東海) 東京火災海上(株)	0	0	6
合計				200

- 2) 会計状況：学会誌の発行と送料のため本年度予算に若干の赤字が見込まれることが報告された。
- 3) 学会誌関係：予定より少し遅れたが創刊号を9月末に発行し、会員に発送した。創刊号は学会の宣伝や後の会員のため450部印刷したので十分な予備があるので、大いに活用してもらいたい(1部2、500円、ただし、学会の宣伝には無料贈呈を考えているので、事務局に請求して下さい)。
- 4) SRA本部理事会への招待出席
池田事務局担当理事がSRA(親学会)の年次大会(10月29日-11月1日、San Francisco)に参加した際にSRA理事会に招待され、今後の協力関係について討議したことについて報告があった。最近のSRA Japan-Sectionの発展と活動は大いに注目を浴び、「理事会の正式メンバー(地域代表)となれるよう次回の理事会で決定するので、学会からの代表の候補を指名してくれるようにとの要請を受けた」との報告があり、討議の結果、池田事務局担当理事を指名した。
- (4) 1990年度総会は第1期役員の変更時期であるので早めの準備を進めることと成った。学会の基礎を固め、継続性と新しい発展をはかるために、原則として現役員の続投と、新たに5~6名程度の増員を不足している分野から求めることとなった。現在の役員から候補者を推薦してもらい、次回の理事会で総会への提案を決定することとなった。また、事務局ももう1期継続することとなった。
- (5) 1990年度春季講演会とシンポジウムの準備状況について
テーマ：災害とリスク(仮題)
日時：1990年6月3日(土)
企画担当：石崎理事、吉本氏(建設省土木研究所)、
吉本会員より企画案の説明があり、講演とシンポジウムでは「地球温暖化問題」と関連した自然災害の面でのリスクも取り上げること、各講師の論点の要約版を作成することとなった。また、予算面での制約のため、講演会への後援依頼の可能性などを企画委員にお願いすることになった。

(6) 第3回研究発表会の企画・実行委員の選出

朝見理事 (Product Liability, 法律関係)、林理事 (病理・医学関係)、北畠理事 (環境・資源関連リスク)、小林理事 (一般) に各セッションの企画をお願いすることとなった。時期は12月上旬の予定。

3. 年次総会・春季講演シンポジウム案内

年次総会 (第2期の役員選出) と第3回の春季講演シンポジウムを下記の要領で開催することになりました。

趣旨 本年度 (1990) から国際防災の10年 (IDNDR) が始まり、世界が自然災害の防止、軽減に集中的に取り組むことになっています。また、地球温暖化にともなう自然災害の増加についても世界各地で大きな話題となっています。災害とリスクは語感としてはかなり異なったものですが、意味的には共通するものを多く含んでいます。日本におけるリスク研究はまだ緒についたばかりですが、リスク概念による視点が自然災害 (または人災、技術災害) の防止と軽減にどのように貢献できるのか、第一線で活躍されている関係者にお集まりいただき、その可能性と限界を議論しようとするものです。

総会・講演シンポジウムの概要

日時 : 1990年6月2日 (土) : 午後1時 - 5時半 (年次総会も含む)

場所 : 東京大学工学部都市工学科82番教室
(東京都文京区本郷2丁目)

年次総会 : 1:00 - 1:45

講演シンポジウム : 2:00 - 5:30

特別講演: 地球温暖化と自然災害

講演者: 木下武雄 (国立防災科学センター、第一研究部長)

パネル討論: 自然災害の防止、軽減にリスク的視点はいかに貢献できるか

司会予定: 片山恒夫 (東京大学生産技術研究所、教授; 地震災害とリスク)

討論者: 石崎勝義 (建設省土木研究所、研究調査官; 自然災害リスクと対策)

岡田憲夫 (鳥取大学工学部、教授; リスク分析手法)

梶 秀樹 (筑波大学社会工学系、教授; 都市災害とリスク)

土屋義人 (京都大学防災研究所、教授; 風水害とその歴史的变化)

吉村秀 (NHK、解説委員; 自然災害とマスコミ)

(終了後に討論者を囲んだ懇親会を予定しています)

4. 学会誌第2号原稿(論文)募集

当学会では今年8月に日本リスク研究学会誌第2号の発刊を予定しております。会員の皆様の研究成果を研究論文または寄稿論文として下記の要領で原稿をまとめて投稿していただけるようお願いいたします。またリスクに関することなら何でも結構ですので、日々考えておられる事をエッセイまたは評論としてまとめていただいたものでも寄稿論文あるいは短文として受け付けますので、よろしくをお願いいたします。

- (1) 原稿締切 : 1990年 2月28日(研究論文)
3月31日(寄稿論文、短文)
- (2) 原稿枚数 : 研究論文 8ページ以内
寄稿論文 1~6ページ、短文 1~2ページ
なお、規定ページ数におさまった場合は掲載料は無料としますが、超過した場合は、超過したページ数に応じて印刷等に係わる費用を負担していただくことになります。
- (3) 論文別刷 : 100部以上50部単位で、有料にて申し受けいたします。
- (4) 原稿サイズ : 1ページにつき40行22字詰で2段組(図表等すべて含む)
- (5) 採否の決定 : 寄稿論文及び短文は査読を行わず、編集委員会が採否を決定いたします。研究論文は複数(2名程度)の査読者による審査結果にもとずいて、論文編集委員会が採否を決定いたします。
- (6) 投稿要領 : 日本リスク研究学会誌創刊号に記載の日本リスク研究学会誌投稿規程を熟読の上、投稿して下さい。
- (7) 執筆要領 : 日本リスク研究学会誌創刊号に記載の日本リスク研究学会誌原稿作成要領を熟読の上、原稿を作成して下さい。また、創刊号の各論文の体裁も参考にして下さい。

5. SRA年次学会の参加報告(池田三郎:筑波大学)

大地震のあと間もないSan Franciscoで開催が危ぶまれたSRAの年次学会が10月29日から4日間の日程で行なわれました。西海岸で開催されることでもあり、学会の雰囲気を知るために参加しました。約70近いセッションからなり、5-6の分科会が同時進行するという大きな学会でした。昼食時には、ゲスト・スピーカーの講演を聞きながら会食する(400-500名)という毎日でした。今回は大物スピーカー(William D. Ruckelshaus:前EPA長官、Donald Kennedy:スタンフォード大学総長、元FDAコミッショナーなど)が登場して、行政と科学の狭間におけるリスク分析と管理の豊富な経験を各々ユーモアをまじえて聞くことができました。

今回の学会では特に、"AIDS"、"Earthquake"、"Right-to-know"というスーパーセッションが組織され地方自治体や一般市民の参加を数多くみかけました。そのほか、特に気のついたものでは"Global Risk Analysis"、"Risk and Ethics: Procedural Issues"、"Computer-Software Demonstration"がありました。日本からは下記の3件の発表が本学会員(SRA Japan Section)によっておこなわれました。

- 1) S. Ikeda, S. Nishimura, T. Morioka & Y. Yamamoto "A Model of Measuring Effects of Drug Safety Information on Public Risk Perception"
- 2) H. Shimooka, T. Taniguchi & S. Kondo "Transition of Public Attitudes toward Nuclear Power from 1987 to 1988 in Japan"
- 3) T. Murayama & S. Harashina "Evaluation on a Risk by Residential Pollution"

RISK *newsletter*

Published by the SOCIETY for RISK ANALYSIS

Volume 9, Number 3

September, 1989

October 29: SRA 1989 Meeting in San Francisco

Garrick Takes SRA Helm

B. John Garrick, president and chairman of the board of Pickard, Lowe, and Garrick, Inc., Newport Beach, California, will become the Society's ninth president at its 1989 Annual Meeting in San Francisco. During the past year he has served as the chairman of the Annual Meetings Committee, an office traditionally held by the president-elect.

Garrick, an innovator in quantitative risk assessment (QRA) for large engineered systems, particularly nuclear power, aerospace, and chemical process systems, believes that the discipline of risk analysis is "beginning to look like a coherent and structured applied science" and that by quantifying risks, it can "help lead industry, government, and the general public to a consensus on what actions to take and how to allocate our risk reduction resources more effectively."

He believes SRA has a responsibility to ensure that QRA becomes an accepted and useful applied science. This can be done by continuing to provide an interdisciplinary forum for the discussion of the rational management of societal risk and continuing to insist on clarity in what is meant by risk analysis, and especially what



B. John Garrick

is meant by QRA. With regard to the latter, he says, "the key is new ideas, intellectual debate, appeal to young achievers, meaningful results, and a demand for quality in theory and practice."

To encourage students to enter the QRA field, the Massachusetts Institute of Technology and PLG established the B. John Garrick Fellowship in Nuclear Engineering in 1986 to support graduate students doing research in

(Continued on page 3.)

The 1989 Annual Meeting of the Society for Risk Analysis will be held October 29-November 1 at the Hotel Nikko in San Francisco, the first West Coast site ever to be chosen by the Society. Hosted jointly by SRA's Northern and Southern California Chapters, the meeting will feature approximately 70 sessions in the Society's three areas of interest: social policy; health and environment; and engineering and statistics. The presentation response has been outstanding and promises to make it an exceptionally interesting meeting.

Chris Whipple of the Electric Power Research Institute and Ray Boykin of California State University-Chico are general co-chairmen of the meeting, and Bill Gekler and Brian Fagan, both of Pickard, Lowe, and Garrick, are technical program chairman and assistant chairman, respectively.

Organizing Committee

In scheduling the sessions, the program chairmen were assisted by several coordinators for the three areas of interest. Caron Chess, Rutgers University, and Roger Kasperson, Clark University, coordinated the social policy sessions; Curtis Travis and Mary Oran, both of Oak Ridge National Laboratory, coordinated the health and environment sessions; and John Garrick and Bill Gekler, both of Pickard, Lowe, and Garrick, coordinated the engineering and statistics sessions. Garrick, the president-elect, is the current chairman of the Annual Meetings Committee.

(Continued on page 2.)

Other members of the 1989 Annual Meeting Organizing Committee are: Jeff Daniels, Lawrence Livermore National Laboratory, arrangements chairman; Joe Fiksel, Teknowledge, Inc., budget and finance chairman; and SRA President Dick Schwing, General Motors Research Laboratories, plenary session chairman. Sue Burk of the SRA Secretariat also assisted in arrangements and publications.

Meeting Openers

The first activity of the 1989 Annual Meeting will be the convening of SRA's current (1988-89) council from 1 to 4 PM on Sunday, October 29. The council meeting will be followed by registration for the meeting at 4 PM and a general reception from 5 to 7 PM. [Note: The new council (for 1989-90) will hold its first meeting on Tuesday, October 31, at 7 PM.]

Preliminary to the general meeting a two-day training course on "Quantitative Methods and Sources of Uncertainty in Health Risk Analysis" will be conducted on Friday and Saturday. The leaders will be Kenneth G. Brown and Douglas J. Crawford-Brown, both of Chapel Hill, North Carolina.

Plenary Session

The speaker for the Monday morning plenary session will be William D. Ruckelshaus, twice the administrator of the U.S. Environmental Protection Agency and currently chairman and chief executive officer of Browning-Ferris Industries, Inc. During the session he will be awarded SRA's Distinguished Contribution Award (see separate story).

Business Meeting

A business meeting will be held Monday at 5:00 PM. The results of the recent Society elections will be announced and committee reports and business matters requiring membership action will be presented.

Luncheon Banquet

In lieu of an evening banquet, the Organizing Committee opted for a Luncheon Banquet on Tuesday. Donald Kennedy, president of Stanford University, will speak on "Risk Analysis:

Annual Meeting Schedule

Sunday, Oct. 29

1:00 PM - 1988-89 Council Meeting
4:00 PM - Registration
5:00 PM - General Reception

Monday, Oct. 30

8:00 AM - Registration
9:00 AM - Plenary Session
10:30 AM - Morning Sessions
Noon - Lunch Break
1:30 PM - Afternoon Sessions
5:00 PM - SRA Business Meeting

Tuesday, Oct. 31

7:30 AM - New Member Breakfast
8:00 AM - Registration
8:30 AM - Morning Sessions
Noon - Luncheon Banquet
1:30 PM - Afternoon Sessions
3:30 PM - PC Software Demo
5:00 PM - Global Risk Analysis Section Meeting
7:00 PM - 1989-90 Council Meeting

Wednesday, Nov. 1

7:30 AM - Chapter Breakfast
8:00 AM - Registration
8:30 AM - Morning Sessions
Noon - Luncheon Banquet
1:30 PM - Afternoon Sessions

Lessons from the War Zone" (see separate story).

Area Emphases

As in the past, the Annual Meeting program will reflect the interdisciplinary character of the Society. Immediately following the plenary session, the health and environmental area will sponsor a super session on AIDS chaired by Lincoln Moses of Stanford University, and on the following day the engineering and statistics area will sponsor a super session on earthquakes chaired by Allin Cornell of Stanford. Other topics within the Society's three areas of interest will also be emphasized throughout the program.

Global Risk Analysis

How risk analysis can contribute to the preservation of the global environment will be the topic of a Tuesday session on special risk topics. Some of the participants are among those who are organizing SRA's Topical Section

on Global Risk Analysis (see May, 1989 issue of Risk newsletter). The section will hold a planning meeting at 5 PM on Tuesday, October 31, with Mike Tiller of Tiller Consulting Group acting as the chair.

Other international issues will be addressed on Monday and Tuesday in a two-session panel discussion on the transfer of hazardous technology to developing countries.

International representation at the meeting will be provided by SRA members from Canada, Japan, Sweden, Germany, and The Netherlands.

Toxic Materials Risks

SRA liaison activities with other societies have resulted in a two-session series on Tuesday being cosponsored by the American Statistical Association's Committee on Nuclear Regulatory Research. The sessions, chaired by Mike Ginevan of Risk Focus, will compare risk analyses for toxic chemicals with those for radioactive materials.

Risks from toxic materials will also be addressed in a number of other sessions. Several sessions will deal with inhalation and/or ingestion exposure assessments, with one reporting on California's experience with its Proposition 65 (Safe Drinking Water and Toxic Enforcement Act of 1986). Risks posed by various types of incinerators (municipal, hazardous waste, utility, mobile) and by hazardous waste land disposal sites will also be discussed.

Right-to-Know Sessions

A number of sessions will be devoted to the Community Right-to-Know Act (SARA Title III). A Monday workshop, chaired by Ann Fisher of the U.S. Environmental Protection Agency, will be titled "Risk Communication — Title III Focus," and three Wednesday sessions, organized by Vlasta Molak of the National Institute of Occupational Safety and Health, will cover various aspects of the act, including the viewpoints of both the industrial and technical community and the public.

Risk Perception

Also on Wednesday, a four-person panel will discuss the recently released National Academy of Sciences study on risk perception. Risk perception and risk communication will be addressed in at least nine other sessions and will be complemented by sessions on risk and ethics, risk assessment and policy, the politics of risk, dealing with risk controversy, and liability and compensation.

Risk Methods

A number of sessions will address risk analysis methods and risk modeling, in particular the modeling of nuclear power plant components and ecological modeling. Two sessions will cover specific quantitative risk assessments, with others addressing uncertainties in risk assessments, probability and statistics, and new ideas in risk assessment (e.g., hormesis). Several sessions will focus on cancer risk assessment techniques and carcinogenesis modeling.

Available exposure data bases for risk assessments will also be discussed, including data for exposure to radon, arsenic, ozone, and dioxin. A Chernobyl data base will also be presented.

Large Engineered Systems

Sessions on risk assessment of engineered systems will be oriented toward space systems, offshore platforms, nuclear power plants, and the chemical process industry. A Tuesday session will focus on the separation of risk analysis and risk management.

Computer Software Demonstration

A computer software demonstration session is scheduled for Tuesday, October 31 from 3:30 PM to 5:00 PM. This session should provide an excellent opportunity for individuals or companies to demonstrate their risk analysis related software. Those who desire to demonstrate software must reserve table space by contacting Bill Gekler at 714-650-8000 by October 25, 1989.

Other Topics

Numerous other topics will be addressed during the 1989 Annual

SRA Annual Meeting Session Chairs

Note: The session numbers given here do not always correspond to those in the preliminary program, which has been revised extensively. The chairs and persons presenting papers should have received notice of any changes impacting their sessions. If you have any questions regarding the changes made, contact Sue Burk at the Secretariat (703-790-1745).

MAM-A: Richard Schwing	TAM-A: Michael Ginevan	TPM-K: Dan Byrd
MAM-B: Lincoln Moses	TAM-B: Theodore Sterling	TPM-L: Jeanette Trauth
MAM-C: Yacov Haimes	TAM-C: Donald Wilson	TPM-M: Michael Tiller Elmer Offenbacher
MAM-D: Not confirmed	TAM-D: Adam Finkel	
MAM-E: Eugene Rosa	TAM-E: Robert Mulvihill Harris Greenberg	WAM-A: Vlasta Molak
MAM-F: Douglas MacLean	TAM-F: Richard Schwing	WAM-B: Roger Sielken
MAM-G: Roger Kasperson	TAM-G: Cheryl Travis	WAM-C: Larry Rheins
	TAM-H: Allin Cornell	WAM-D: Adam Finkel
MPM-A: Cathy St. Hilaire	TAM-I: Michael Ginevan	WAM-E: Robert Long
MPM-B: Lorenz Rhomberg	TAM-J: George Alexzeff	WAM-F: Andrew Sivak
MPM-C: Nathan Siu	TAM-K: Donald Wilson	WAM-G: Ann Fisher
MPM-D: Allen White	TAM-L: Raymond Freeman	WAM-H: Vlasta Molak
MPM-E: William Freudenburg	TAM-M: Rufus Morison	WAM-I: Ann Fisher
MPM-F: Adam Finkel	TAM-N: Brandon Johnson	WAM-J: Alan Rulis
MPM-G: Yugal Luthra		WAM-K: Hatice Cullingford
MPM-H: Ann Fisher	TPM-A: Fred Hoerger	WAM-L: Robin Cantor
MPM-I: Ann Fisher	TPM-B: Lauren Zeise	WAM-M: John Perrecone
MPM-J: Cathy St. Hilaire	TPM-C: Raymond Freeman	
MPM-K: Kurt Runke	TPM-D: Helina Brown	WPM-A: Joyce McCann
MPM-L: Stan Hayes	TPM-E: Lloyd Philipson	WPM-B: Steven Washburn
MPM-M: Ram Kulkarni	TPM-F: Joanne Nigg	WPM-C: Art Schuyler
MPM-N: Stan Kaplan	TPM-G: George Apostolakis	WPM-D: Mardyras Kazarians
MPM-O: Brandon Johnson	TPM-H: Holly Hautemer-Frey	WPM-E: Rob Coppock
MPM-P: Ola Svenson	TPM-I: Gay Goodman	WPM-F: Vlasta Molak
	TPM-J: Ali Mosleh	

Meeting, including applications of risk assessment to economic analyses, social science theory and risk, and computer risk assessment. Altogether, the program, which will usually be offering seven concurrent sessions, will include approximately 285 papers.

Garrick Takes Helm

(Continued from page 1.)

probabilistic risk and reliability analysis. A similar fellowship was established at the University of California, Los Angeles.

Garrick received his MS and PhD in engineering and applied science at UCLA and is currently an adjunct

professor there. He received his BS in physics at Brigham Young University; in 1955 he graduated from the prestigious Oak Ridge School of Reactor Technology. His experience includes 18 years with Holmes & Narver, five years with the U.S. Atomic Energy Commission, and 14 years at PLG.

Garrick is a charter member of SRA and has been involved in numerous Society activities, including serving on the council, 1986-88; chairing the Membership Committee, 1986-87; serving on the Awards and Nomination Committees, 1987; directing three SRA-sponsored short courses on risk analysis and management in industry, 1987 and 1988; and initiating SRA's Southern California Chapter.

6. S R A News Letter の紹介

最新の S R A Journal の目次をお知らせします。論文のコピーのご希望があれば、コピー代(15円/枚)と郵送料を併せて郵便切手にてご請求下さい。

Journal Contents

The tables of contents of Vol. 9, No. 3 and Vol. 9, No. 4 of the SRA journal *Risk Analysis* are reprinted below.

Vol. 9, No. 3

GUEST EDITORIALS

Sheila Jasanoff, *Norms for Evaluating Regulatory Science*

Joseph Rodricks, *Determining Compliance with PCB Standards*

RISK SYMPOSIUM PAPERS

Michael Kraft and Myrick Freeman, III, *Introduction: Economic and Political Issues in Risk Analysis*

Lester Lave and Kathleen Heffernan Vickland, *Adjusting to Greenhouse Effects: The Demise of Traditional Cultures and the Cost to the USA*

Daniel Fiorino, *Technical and Democratic Values in Risk Analysis*

Susan Hadden, *Institutional Barriers to Risk Communication*

Myrick Freeman, III, *Ex Ante and Ex Post Values for Changes in Risk*

Howard Kunreuther, *The Role of Actuaries and Underwriters in Insuring Ambiguous Risks*

Dan Anderson, *Financing Liabilities Under Superfund*

John Campbell, Jr., *Financing Liabilities Under Superfund: Some Comments*

Martin Katzman, *Financing Liabilities Under Superfund: Comment*

OTHER ARTICLES

John Mendeloff and Robert Kaplan, *Are Large Differences in "Lifesaving" Costs Justified?: A Psychometric Study of the Relative Value Placed on Preventing Deaths*

Leland Baskin and James Falco, *Assessment of Human Exposure to Gaseous Pollutants*

Helen Goeden and Allan Smith, *Estimation of Human Exposure from Fish Contaminated with Dioxins and Furans Emitted by a Resource Recovery Facility*

Ola Svenson and Gunnar Karlsson, *Decision Making, Time Horizons and Risks in the Very Long Time Perspective*

Charles Keown, *Risk Perceptions of Hong Kongese Versus Americans*

Dennis Quinn, *Calculating the Hazard Function and Probability of Tumor for Cancer Risk Assessment When the Parameters Are Time Dependent*

SOFTWARE LISTINGS

Paul Moskowitz

BOOK REVIEWS

Robin K. White

Vol. 9, No. 4

EDITORIAL

Andrew Lindstrom, *Rapca's Point Source vs Toxic Emission Inventory*

LETTERS TO THE EDITOR

Peter LaGoy, *Significant Figures in Risk Assessment: More Caution Is Warranted*

David Holtgrave, *Human Exposure Modeling and the Stream of Behavior*

EUROPEAN PAPERS

Timothy O'Riordan and Ray Kemp, *Introduction: Risk Analysis in Europe*

Barry Turner, *Accidents and Non-Random Error Propagation*

Philippe Hubert and Pierre Pages, *Risk Management for Hazardous Materials Transportation: A Local Study in Lyons*

Claire Mays and Marc Poumadère, *Decentralizing Risk Analysis in Large Engineered Systems: An Approach to Articulating Technical and Socio-organizational Dimensions of System Performance*

Klara Farago, Anna Vari, and Janos Vecsenyi, *Not in My Town! Conflicting Views on the Siting of a Hazardous Waste Incinerator*

Rob Weterings and José van Eijndhoven, *Informing the Public About Uncertain Risks*

Lewis Roberts and Michael Hayns, *Limitations on the Usefulness of Risk Assessment*

Josée Van Eijndhoven and Ardaan Van Ravenzwaaij, *Optimizing Risk Analysis Relating to External Safety in the Netherlands*

Harry Otway and Aniello Amendola, *Major Hazard Information Policy in the European Community: Implications for Risk Analysis*

Timothy O'Riordan, Helmut Jungermann, Roger Kasperon, and Peter Wiedemann, *Themes and Tasks of Risk Communication. Report of an International Conference held at KFA Jülich*

OTHER ARTICLES

Kenneth Brown, Kerrie Boyle, Chao Chen, and Herman Gibb, *A Dose Response Analysis of Skin Cancer from Inorganic Arsenic in Drinking Water*

William Galyean, K. C. Wagner, and R. Jack Dallman, *Simplified Containment Event Tree Methodology Applied to Peach Bottom SBO-ST Sequences*

Frank Laird, *The Decline of Deference. The Political Context of Risk Communication*

Sati Mazumdar, Carol Redmond, Philip Enterline, Gary Marsh, Joseph Costantino, Susan Zhou, and Rita Patwardhan, *Multi-stage Modeling of Lung Cancer Mortality Among Arsenic Exposed Copper-Smelter Workers*

Andrew Fritzsche, *The Health Risks of Energy Production*

Robert Spear and Steve Selvin, *OSHA's Permissible Exposure Limits: Regulatory Compliance Versus Health Risk*

Ellen O'Flaherty, *Interspecies Conversion of Kinetically Equivalent Doses*

SOFTWARE REVIEWS

Edmund Crouch, *TOX-RISK: A Program for Fitting Dose-Response Formulae and Extrapolating Between Species*

SOFTWARE LISTINGS: Paul Moskowitz

CALL FOR PAPERS

International Conference on Probabilistic Safety Assessment and Management (PSAM)

Beverly Hills, California
February 4-7, 1991

The Society for Risk Analysis is sponsoring an international conference to provide a forum for the presentation of scientific papers covering the methodology and applications of system-based approaches to the design and safe operation of technological systems and processes. These include nuclear plants, chemical and petroleum facilities, defense systems, aerospace systems, and the treatment and disposal of hazardous wastes.

Technical sessions will be organized on safety management and decision making, risk-based regulation, probabilistic and nonprobabilistic models for safety assessment, uncertainty analysis, uncertainties in physical and chemical processes, expert judgment elicitation and use, human reliability, risk-based methods

for operator training, computerized operator aids, artificial intelligence in support of safety, software system safety, implications of advances in computer power, natural phenomena, multihazard analysis, aging of systems and structure, reliability-based design, accident management, and risk communication.

Four copies of a 1000-word summary should be submitted by April 6, 1990, to the General Chairman: George Apostolakis, Mechanical, Aerospace, and Nuclear Engineering Department, University of California, Los Angeles, CA 90024-1597, USA. For further information, contact Apostolakis at Phone 213-825-1300, Telex 3716012 UCLA LSA; or Telefax 213-825-0761.

S R A の主催する国際会議” Probabilistic Safety Assessment & Management” の開催委員長 Prof. G. Apostolakis Univ. of Cal. LA. から京都大学工学部井上紘一教授（会員）宛に SRA Japan Section で一つの分科会を組織してくれるようにとの要請がありました。関係する会員の方々の積極的な参加をお願いします。

連絡先：京都市左京区吉田本町京都大学工学部航空工学教室 井上紘一教授

電話：075-753-4975

締切：英文要旨（1,000 words）、2月末日までに井上教授にご連絡下さい。

